

令和元年度第1回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 令和元年7月17日（水） 午後3：45～5：45

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：林 大樹、秋山 滋雄、岡本 和子、長谷川 浩司、熊手 正浩、
武内 敬之、鈴木 篤志、川野 和寿、左 裕美子

頼高 英雄市長

事務局：佐藤 慎也（総務部長）、有里 友希（総務部政策企画室長）
島田 雅也（政策企画室長補佐）、森本 悠理（政策企画室主事）
仲田 翼（政策企画室主事）

■次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 会長選出
6. 議題
 - (1) 会議の公開、傍聴に係る取り決めについて
 - (2) 有識者会議の概要等について
 - (3) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況と人口ビジョンの現状について
 - (4) その他
7. 閉会

■内 容

【開会】

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

【自己紹介】

【会長選出】

会長に林委員を選出。

【議題】

(1) 会議の公開・傍聴に係る取り決めについて

事務局から、会議の公開について概要を説明した。(資料3・4参照)

⇒会議の公開・傍聴に係る取り決めについて、資料3「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料4「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議の傍聴にかかる取り決め(案)」のとおり取り扱うことです承した。

また、傍聴の定員は4人と定め、希望者が定員を上回る場合は、会長が判断することとした。

(2) 有識者会議の概要等について

事務局から有識者会議の概要等について説明した(資料5参照)。

(3) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況と人口ビジョンの現状について

事務局から、蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況と人口ビジョンの現状について説明した(資料6・資料7参照)。

その後、各委員から、現総合戦略の検証という視点及び総合戦略改定に向けた視点から、次のとおり意見・質問等をいただいた。

委員：4点質問がある。1)資料6の3ページ目にある不登校児童・生徒数の小・中学生別の内訳はあるか。2)市立病院耐震化に向けた動向を知りたい。3)資料6の1ページ目にある犯罪発生件数に振り込め詐欺は含まれるか。4)資料7の1ページ目で示されている近年の人口増における外国人割合はどの程度か。

事務局：1点目は、資料がないので後日回答したい。

(担当課に確認:平成30年度の57名の内訳は児童15名、生徒42名)

2点目は、蕨市立病院将来構想の策定後、施設整備検討委員会を設置して耐震化に関して本格的な検討を進めている。3点目は、振り込め詐欺も含まれる。4点目は、平成30年度の人口増867人のうち597人が外国人である。

委員：蕨市にある地域包括支援センターの数と、拡大予定など今後の活動ビジョンを知りたい。

事務局：現在市内に2か所あり、3か所目を整備する予定である。センターの具体的な取組としては、資料6の4ページ目にある地域包括ケアシステムの役

割などを担っている。

委員：資料6の5ページ目にある市民意識調査「駅周辺の整備」の満足度は下がる一方であり、目標値に遠いことを懸念している。また、中心市街地活性化基本計画は最終年度であり、2期目について、国の認定を目指すか、任意計画にするかを決めないといけない。まちの活性化への期待度は高いので、更なる取組が重要となる。

事務局：昨年度の市民意識調査では「今後5年間で特に充実してほしい施策」において、「蕨駅周辺の整備」が上位で、市民の期待度が高かった側面がある。

会長：期待度が上がると満足度が下がる可能性があることに留意する必要がある。

委員：駅前商店街の住宅化が進んでいるが、「にぎわいづくり」は本当に実現できるのか。また、機まつりで七夕の飾りが足りなくて寂しいという話を聞くので、助成金を出すなどの仕組み作りもよいと思う。

事務局：駅前商店街については、中心市街地活性化基本計画で課題を認識して、様々な取組を行ってきているが、今後も継続的な課題だと思う。

会長：駅前商店街に都市計画上の建築制限はかかっているのか。

事務局：資料がないので後日回答したい。

(担当課に確認：平成27年に都市計画道路を廃止しており、現在は、用途地域による建物の用途制限を除き、建築制限はかかっている。ただし、中央第一地区計画区域内においては、壁面の位置などの制限がある。)

委員：駅前商店街の空き店舗については調査を進めているが、所有者の意思で一部しか貸店舗になっておらず、残りは物置、駐輪場などである。外国人が土地を購入して住宅を建てる動きが活発であり、商店街に店舗や企業を残すための取組を進めるとともに、改定版総合戦略にも位置付ける必要があると思う。

委員：全国的に犯罪発生件数は減少傾向であるが、蕨市の減少要因は資料6の1ページ目にある、防犯灯のLED化、防犯カメラの設置によるものか。

事務局：それらに限らず、町会のパトロールなど各種取組の総合的な成果である。

事務局：統計上、犯罪発生件数で最も多くを占めているのは自転車盗であり、放置自転車対策なども減少の一因にあると思う。

委員：犯罪発生件数の減少について、人口減少などの仮説は立てるものの、要因を特定できていない自治体が多い。細かい取組も前面に出して要因を分析しないと、具体的な成果が見えない。警察署と連携した取組の実績はないのか。

事務局：資料は新規の取組などに絞って載せているが、将来ビジョンに記載しているような防犯パトロールなどの取組は警察署と連携している。なお、蕨市の人口は増えているが、犯罪発生件数は減少している。

(担当課に確認：直近の減少は、平成29年10月から街なかへの設置を開始した防犯カメラの周知・啓発により抑止力が働いたと認識している)

会 長：意見書において、分析が必要なことは言及したほうがよいだろう。ところで、第1期総合戦略の総括は文書で行うのか。

事 務 局：文書化する予定はないが、会議の意見などを踏まえて検証した取組を、改定する総合戦略に位置付けることになる。

委 員：保育園を開設したい事業者にとって、外国人の増加が開設にあたってのマイナス要因になることがある。若年者人口が増えることを前提として戦略を作ることには疑問がある。また、犯罪発生件数について、特殊詐欺は、振込みを自分で行った場合、受け手がいた場合などで統計上扱いが異なると思うので、正確な数字を把握してほしい。今後は、警察・金融機関だけでなく地域連携が必要になることを踏まえて、必要な取組を検討してほしい。

(蕨警察署に確認：刑法犯認知件数には、特殊詐欺を含む詐欺に分類される犯罪全般が含まれている)

委 員：各委員の発言は去年の意見書と類似している部分が多いので、これまでの会議の意見を総括したほうがよいのではないか。また、事務局がこの場で各事業への細かい質問に回答するのは難しいと思うので、各部署と連携して、次回までに回答を用意していただけるとありがたい。小学校下校時の見守り活動など、犯罪防止の一助になっている色々な取組はあると思う。

委 員：資料6の1ページ目にある「障害のある方々などへの避難行動支援計画」の中に「個別計画を策定し、その情報を避難支援等関係者へ提供した」とあるが、具体的に何を行ったかが全く分からない。そもそも安全安心推進課だけで完結する取組なのか。

事 務 局：障害者福祉を担当する福祉総務課、要介護者を担当する介護保険室などと連携して、対象者の名簿を作成した。

委 員：全体的にKPIの妥当性や統計的分析の納得性に疑問があるので見直しを行う必要を感じる。一例として、今は、不登校を一概に悪いこととしない社会的変化があるので、KPIとしては、不登校児童・生徒数の減少ではなく、不登校児童・生徒への対応に関する指標を設定するのが正しいと思う。

事 務 局：KPIについては、会議で出た意見を踏まえて、総合戦略の改定にあたって見直したい。

委 員：緊急時に、診療が充実している戸田中央総合病院に行かざるを得ない場合があった。市立病院について、耐震化だけでなく、診療科の充実も進めてほしい。また、外国人児童は、小学校の1クラスに5、6人おり、町会役員も外国人にお願いしている現状がある。多文化共生について、個人で

きることには限界があるので、市の更なる取組をお願いしたい。治安の悪化も心配だが、最近、事件の際に無線放送やメールで情報を共有してくれたことはありがたかった。今後も住みやすいまちづくりを進めてほしい。

【その他】

事務局より、今回頂いた意見を基に現総合戦略の検証に関する意見書としてとりまとめ、皆さんに確認いただきたい旨、次回の11月の会議では、総合戦略改定に向けた視点から意見をいただきたい旨を説明した。

以上